

J Sights Corporation

トルコで諸々想い感じたこと（出張番外編）

2025 年 6 月 30 日

J サイト株式会社

齋藤政人

世界三大料理はフランス料理・中国料理・トルコ料理と言われていることは、皆さんよくご存じの通りです。トルコへの出張は今回で 5～6 回目と思いますが（正確に数えておらず）、今回初めて、トルコは美味しいと気づきました。お恥ずかしい限りです。

まず、コーヒーと紅茶。トルココーヒーは粉と共に水から沸かすのも皆さん、ご存知の通り。提供されるコーヒーには粉も入っているのですが、まずは粉（と自分の気持ち）を落ち着かせ、少し沈殿するのを待ってから飲みます。少々クセがありますがエスプレッソのようで、慣れてしまえば日本人にもよく合う味と思います。昔は砂糖を入れて供されましたが、今は最初に砂糖を入れるか **Black** で飲むかを聞いてくれます。一緒にデザートや **Turkish Delights** と呼ばれるお菓子が供されるので、私はエスプレッソよろしく **Black** でいただきました。

トルコの紅茶は「チャイ」と呼ばれることも皆さん、ご存知の通りです。チャイですがミルク等々が入っておらず、基本は砂糖だけです。これも最初に砂糖入れるか？と聞いてくれるので、私は砂糖なしで飲んでいました。少し渋みが強いのにはコーヒーにも共通するトルコの特徴でしょうか。私は濃いめのお茶が好きなので大変相性が良く、滞在中はずっとチャイを飲んでいました。大満足でした。



Turkish Delights

訪問したのがアンカラとアダナのみだったので、料理は基本、いつもケバブでした。昼も夜もケバブ。昼と夜、どちらのケバブが美味しかったか？と議論するほどケバブばかり。ケバブ以外はサラダ（トマト・キュウリ・玉ねぎを何種類かの味付けで供します）とピデ（トルコ風ピザ）だけです。とは言っても、どれも種類豊富で食べきれないほどの量が出てきます。ケバブは日本でよく見かけるものとは違い、日本のイメージで言えば **BBQ** です。要するに、毎日、昼食と夕食に **BBQ** を食べている、数種類のサラダとピザが一緒に出てくるというイメージです。一番ありがたいのは、必ず大皿で提供されること。どれをどのくらい食べるかを自分で決められるので、食べ過ぎるということがなく、海外出張としては胃が楽でした。



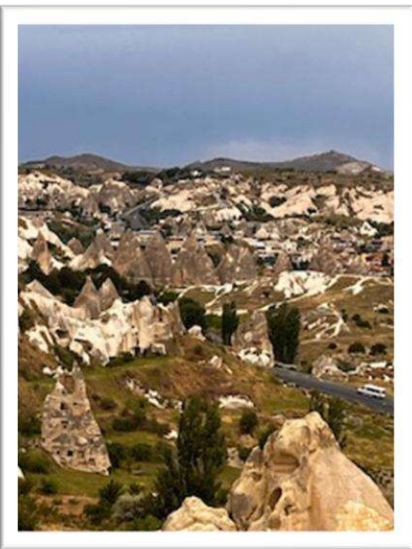
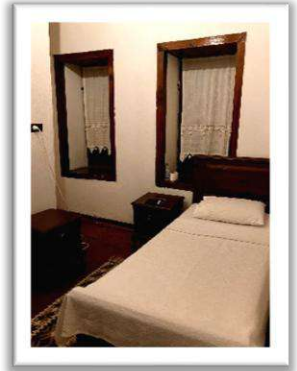
J Sights Corporation



今回の出張で特記すべきは、久しぶりにスゴいホテルに宿泊したこと。アダナ市コザン地区のホテルです。工場に近いからという理由で 2 泊しましたが、これがスゴイ。地区で一番いいホテル、築 100 年以上、昔の貴族の館をリフォームしたとのことでしたが、本当にリフォームしたのか？と疑う室内です。最大の見せ場はバスルーム。バスルームと言ってもトイレしかなく、シャワー・バスタブはありません。よく見ると、トイレの横に（昔懐かしい）湯沸かし器とシャワーヘッドがあり、自分で湯沸かし器の火をつけ、トイレ（便器）横でシャワーを浴びるのだそうです。結果、トイレ（便器）は水びたし。トイレを先にするかシャワーを先にするか、よく考えないと悲惨な結果となる 2 日間でした。昔、ミャンマーの田舎で同じような経験をしたことがあり、出張前に工場近隣のホテルに泊まると聞き、イヤな予感がしたのでサンダルを持参したのが功を奏しました。



初日は夜 9 時過ぎにチェックインしたので周りがよく見えず、入った部屋にはエアコンがあったのですが、そのエアコンのダクトからポタポタと水漏れしており、自分のスーツケースを床に置くと（床が傾いているので）スーッとポタポタの真下に転がっていく、部屋をあちこち見ているうちに自分のスーツケースに水がポタポタと落ちているという、ホーンテッド・マンションのような最初の儀式も、慣れてしまえば大した話ではありませんでした。ただ、ベッドではなく床が傾いているので、どうしても気になって寝づらい、という 2 晩でした。



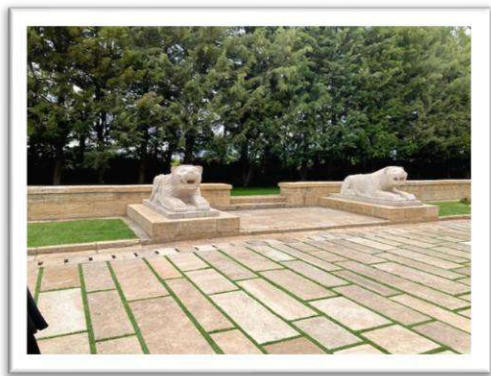
楽しいこともありました。アダナからの帰路、カッパドキアに立ち寄りました。予想以上の圧巻の広さ。気球は朝早くしか見られないとのことでしたが、もちろん気球なしでも大変綺麗な景色でした。地上の景色だけでなく地下都市と呼ばれる住居跡もあり、これもなかなかの規模でした。観光の最後、景色を楽しみながらトルコ産ワイン（赤、ピノノワール系の葡萄品種との説明）を少しいただきました。楽しい思い出となりました。

J Sights Corporation

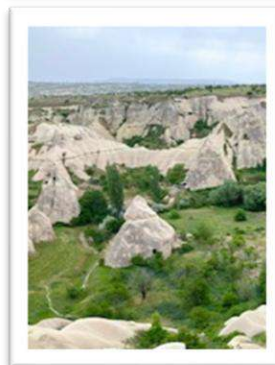
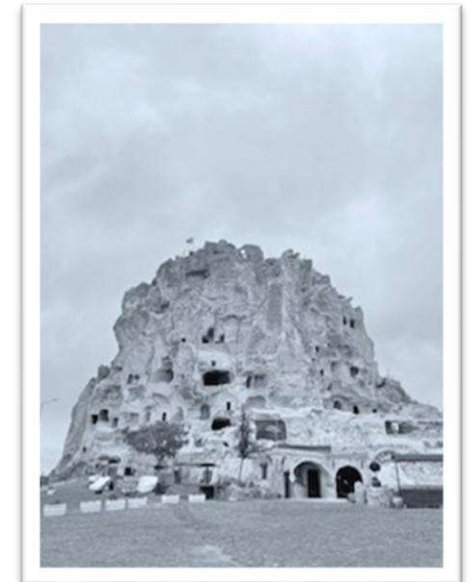
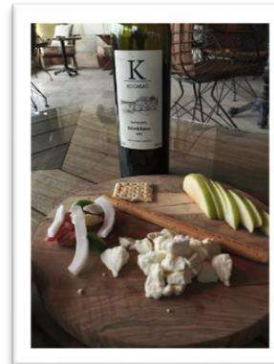
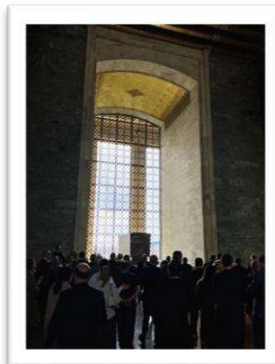
帰国前日、アンカラのアタチュルク廟にも出かけてきました。トルコ建国の父の記念廟とのことですが、トルコ国内からの観光客（修学旅行を含め）が多い印象でした。多くの観光客でごった返していましたが、不思議と静寂な雰囲気もあるところでした。出張中ながら気持ちたちが落ち着き、個人的にはいい場所を訪問したと感じた廟でした。

昔からトルコは親日国と言われています。和歌山沖のトルコ軍艦遭難事故や、日露戦争の勝利が影響していると言われます（果たして現代のトルコ人が本当に親日家か？については、個人的には大きな疑問があります）。今回感じたのはそういう歴史からの印象ではなく、トルコ人は民族として情に厚いのだろうということです。たぶん、民族と

して大変真面目、一度決めたら、きちんとするという感覚なのではないかと感じました。保守的なのかもしれません。トルコは大陸（それも東西の接点）日本は島国という、民族性に与える影響では基本的に大きな違いがあります。それでも共通点があり面白いですし、そういう共通点を見つけることは出張（仕事）の楽しみの一つです。仕事をしているとイヤな面ばかりを見てしましますが、自分の小ささ・狭さに囚われることなく、もう少し視野を広げて見るべきとつくづく感じた1週間でした。



写真館



 [お問い合わせフォーム](mailto:webinfo@jsights.com)

 webinfo@jsights.com